

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年10月6日～2014年10月12日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年10月21日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア・南オセチア】

▼第29回ジュネーブ会議開催（10日）

・8日、第29回ジュネーブ会議が行われた。
・同会議には、グルジア、ロシア、米、南オセチアおよびアブハジアの代表が参加し、EU、米およびOSCEの代表が共同議長となり、2つの作業部会が開かれた。第一作業部会は、国際安全保障の調整および武力不行使等安全保障問題について、第二作業部会は人道問題について扱われた。

・グルジア外務省は声明において、今次会議はビジネスライクな雰囲気の中で行われ、両作業部会において全議題を協議したと発表した。

・これに対し、ロシア外務省は、国内避難民問題の議論は「延期された」とし、また、アブハジア「外務省」は、避難民問題は議論されなかったとした。南オセチアとアブハジアは、グルジアが国内避難民に関する決議を国連総会にて推進する限り、本件について議論するつもりはないとしている。

・ロシア外務省は、今次会合において、南オセチアおよびアブハジアの代表が、NATO首脳会議でグルジアに関して採択された決定により、グルジアとの間でパイの武力不行使に関する条約の必要性が更に増したことに留意するとしたことを声明の中で述べ、さらに、「かかる方向性の有効な措置として、全参加者による武力不行使および安全保障に関するロシアの共同声明案が議論された」と述べた。

▼武力不行使に関するロシア案は協議されず-ザルカリアニ第一外務次官（10日）

・今次ジュネーブ会議では、武力不行使についてのロシアの共同声明案は協議されなかったとザルカリアニ第一外務次官は述べた。「カラーシン露外務次官は、右事項を強調したが、グルジア側より、ジュネーブ会議のフォーマットでは、かかる事項は検討されることにはなっていないため、協議すべきではないとカラーシン次官に説明した」とザルカリアニ第一外務次官は述べた。

▼ロシアとの新たな協定はアブハジア軍を近代化する-ハジンバ「大統領」（11日）

・ロシアとの新たな包括的な協力「協定」は、ロシアとの軍事「同盟」を拡大し、アブハジア軍の近代化に向けた助力となる旨、ハジンバ・アブハジア「大統領」は、11日に行われたアブハジア軍の22周年記念式典において述べた。

・「ロシアとの軍事『同盟』を強化し拡大する必要がある。我々が年内に署名を予定している新しい『協定』は右を含む。同『協定』は、アブハジア軍の大規模な近代化を促し、物質的、技術的な支援および準備を増強し、軍人の給与および社会保障を拡大させる」と同「大統領」は述べた。

2. 外 政

▼サハキャン・アルメニア国会議長のグルジア訪問（6日～8日）

・10月8日、グルジア・アルメニア議会協力グループ会合が開催された。

・会合のオープニング・ステートメントで、ウスパシヴィリ・グルジア国会議長は、「グルジアはEU連合協定に署名した。アルメニアは、ユーラシア同盟に参加することで戦略的利益の確保を目指している。我々は、相互の主権的な選択を尊重することを強調し、アルメニアの同僚に対し、グルジアの欧州統合の進展は、アルメニア国民に否定的な影響を与えることはない旨再確認する。グルジアのEUとの関係強化は、隣国であるアルメニアにも望ましいものであるということをお我々は欧州のパートナー諸国に明確に伝えた。アルメニアは、ユーラシア同盟において同様のアプローチを取っている。すなわち、アルメニアの同僚は、ユーラシア同盟のパートナー諸国に対し、ユーラシア同盟の進展により、グルジアとアルメニア間の貿易や経済関係を含む2国間関係が問題や複雑化に直面することはないということを説明している。右が重要な戦略的事項であり、我々はそれを完全に理解している。」と述べた。

・サハキャン・アルメニア国会議長は、主に、両国の議会間の協力の重要性、本年末までにグルジアの国会議員のアルメニア訪問の招待につき述べた。ウスパシヴィリ・グルジア国会議長は、「本年の訪問はできなくとも来年の初旬には必ず訪問したい」と回答した。

・グルジア訪問中、サハキャン議長は、グルジア大統領、首相、外相、イリヤ2世総主教と会談した。

▼ジョシヴァエフ・カザフスタン第一外務次官とパンジキゼ・グルジア外相との会談（7日）

・パンジキゼ外相は、ジョシヴァエフ・カザフスタン第一外務次官（EXPO2017委員長兼任）と会談した。両者は主に2017年の6月から9月にアスタナにおいて開催されるEXPO2017について協議した。

・パンジキゼ外相とジョシヴァエフ次官は、グルジア・カザフスタン間の二国間協力に関する現在の問題につい

て協議した。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領のプーチン・ロシア大統領に関する評価（8日）

・フォーブス・ジョージア誌によるインタビューにおいて、マルグヴェラシヴィリ大統領はプーチン・ロシア大統領について以下のとおり述べた。

「プーチン大統領はグルジアにとって最も困難な問題の実際の決定者として興味深い。プーチン大統領が合理的であり、合理的な政策を支持することを望んでいる。いつかグルジアの国益に有利となるグルジア・ロシア関係を築くことが可能になることを期待している。仮にプーチン大統領が、ロシアの強さは近隣諸国との友好的な関係ではなく、軍事侵略によって回復されると信じているならば、それは短期間には小さな利益をもたらすかもしれないが、結果として割に合う政策とはならない。領土や天然資源の豊富さでロシアに比肩する国は世界にない。南オセチアを併合することに合理性はないと考える。軍事侵攻は、如何なる利益ももたらさないことを理解するだろう。」

▼ロシア外務省：グルジアにおけるNATOの存在はコーカサスの安定に対する脅威（8日）

・ロシア外務省は、「ロシアは、NATO関連のインフラをグルジアに設置する計画に関し、グルジアの報道機関により流布された噂に対し懸念表明する。このような行動は、南コーカサスの既存の安定を脅かす。」との声明を発出した。

3. 内 政

▼「グルジアの夢－民主グルジア」の事務局長にジャンカラシヴィリ氏が就任（6日）

・「グルジアの夢－民主グルジア」は、ジャンカラシヴィリ前内務省総合監察長を事務局長に指名した。同党事務総長であるカラゼ副首相によると、政務理事会は、全会一致で同氏の指名に賛成した。カラゼ副首相は、「社会民主的理念に基づき党を建設することが重要であり、その目的のために日夜働くことのできる人物が必要である」と述べた。

▼囚人115人の恩赦（8日）

・マルグヴェラシヴィリ大統領は115人の囚人の恩赦公告に署名した。115人うち88人は当日のうちに獄中へ、27人は、刑期が半分ないし3分の1に減刑された。恩赦対象となった囚人のうち7人が未成年、1人は女性。計画殺人罪で収監されていた2人の囚人も恩赦の対象となり、刑期が半減された。

▼統一国民運動（UNM）のトビリシ市の会合への参加不許可（8日）

・トビリシ市の会合参加のため、UNMメンバーはトビリシ市庁舎前に集合したものの、トビリシ市の会合への参加が認められなかった。UNMのメリア氏は、右措置

は違法である旨述べた。同人によれば、市の会合は全ての市民にとって開かれている由。UNMは、マルグシヴィリ副市長の評価委員会議長職の解任を要求した。

▼ジュヴァニア事件の捜査が近く終了（10日）

・ジュヴァニア事件の捜査は近く終結するであろうとジュヴァニア元首相の弟であるゴグラ・ジュヴァニアは述べた。同人によれば、遺体を掘り起こすか否かは未だ決まっておらず、仮に決まった場合、右手続きはグルジアおよび外国の専門家によって実施される。

4. 経 済

▼ポチおよびウレキ地域のエネルギー供給の改善（7日）

・ポチおよびウレキ地域に電力を供給するニグヴジアニの110キロボルト高電圧送電線が稼働をはじめた。「JSC ENERGO-PRO」社は、数ヶ月で12kmの送電線の建設作業を完了させた。ニグヴジアニ送電線は、安定的な電力供給および大容量の送電を可能にする。送電線の建設費は350万ラリ。

・両地域は、既存のチャラディディ110キロボルト送電線により電力が供給されてきたが、今回もう一つの送電線が完成したことにより電力供給の安定性が向上し、緊急時および計画停電時も電力供給が途切れることがなくなった。

▼人口の4%、子供の6%が深刻な貧困状態（8日）

・ユニセフによれば、貧困について過去2年間で改善し、2011年～2013年で月間収入は44%増加、月間消費は25%増加した。社会福祉の主要な政策手段は、年金および社会保障予算であるが、年金額は80～125ラリから150ラリに増額、社会保障予算は倍増した。・肯定的な経済動向にもかかわらず、昨年は、人口の4%、子供の6%が深刻な貧困状態である。貧困指数は25%から27%に増加した。子供のいない家計の16.5%、子供のいる家計の26%が貧困ライン以下で生活している。

▼パラヴァニ水力発電所がサムツヘージャワヘティにて開所（11日）

・11日、87メガワットのパラヴァニ水力発電所の開所式が実施された。ガリバシヴィリ首相は、右セレモニーにおいて、エネルギー部門の発展とグルジアの水力発電能力の合理的な利用は経済成長に対して重要な意味がある旨述べた。

・同水力発電所は、パラヴァニ川から発電所まで14kmの誘導トンネルを有し、35kmの220キロボルト送電線と連結している。

・同発電所は、グルジア都市エネルギー社により運営されている。同社は、トルコの複合企業体である Anadolu グループが90%の出資をしているほか、EBRD、IFC等も出資している。

・同発電所は、冬期にはグルジア国内に電力を供給し、他の季節である9ヶ月間はトルコに売電する。